

2026

6

7

(日)

全国稼働

～原発依存を加速する政権ゆるすな～

あしたの明日をおおきな
原発のなしin



「原発依存社会」を
延命させるための
3つの原発政策

原発新增設

使用済み核燃料の
乾式貯蔵

老朽原発稼働
の拡大

◆6月7日(日)午後
大阪市内で集会とデモ
ご予約ください。

老朽原発うごかすな！情報サイト



自然エネルギーへ
転換しよう！

あした 原発のない明日を実現しよう

自民維新政権の高市首相は、エネルギー政策に関して「資源国に頭を下げる外交を終わらせたい」「エネルギーの国内自給率 100%を目指す」とし、そのために「既存原発の再稼働、革新軽水炉への移行」を掲げて原発を推進する一方、自然エネルギーの推進には消極的です。

しかし、**自然エネルギーの宝庫である日本では、その活用がエネルギー自給率 100%への最も近い道であり、過酷事故の危険性が高く、トラブルが頻発し、行き場のない使用済み核燃料を発生させ、燃料であるウランの全てを輸入に頼る原発こそ、エネルギー自給を妨げているのです。**

高市首相は「核融合を 2030 年代に稼働させる」ともしていますが、核融合実現への技術的な壁は高く、今世紀中の稼働も不可能との声もあります。

理論的に可能なものでも、実用できるとは限らないし、実用してよいとも限りません。また、科学技術は、経済や政治の願望によって、急に進歩するものでもありません。

**「原発依存社会」に向かって暴走する政府や電力会社は
次の3つの政策によって、原発を延命させようとしています。**

①使用済み核燃料の乾式貯蔵

使用済み核燃料は、発生直後には、膨大な放射線と熱を発生させるから、燃料プールで水冷保管しなければなりません。そのプールが満杯になれば原発を運転できなくなるため、電力会社や政府は、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を乾式貯蔵に移して、プールに空きを作ることに躍起です。乾式貯蔵を許すことは、原発の運転継続を許すことになります。逆に、乾式貯蔵を阻止できれば、原発を停止させることができます。なお、関電などの電力会社は、乾式貯蔵に移した使用済み核燃料の搬出先として再処理工場の稼働を願望していましたが、2024年8月、再処理工場が27回目の完成延期を発表したため、この願望は破綻しました。

②老朽原発稼働の拡大

現在、稼働可能な原発33基の中の17基が、2030年には、運転開始後40年を超える老朽原発になります。とくに、関電では、稼働可能な原発7基の中の5基が老朽原発です。すでに50年を超えた高浜1、2号機、もうすぐ50年超えの美浜3号機は超老朽原発です。危険極まりない老朽原発運転の暴挙を許してはなりません。

③原発新増設

関電は、去る11月10日、美浜原発の新設に向け、中断していた地質調査を再開しました。しかし、関電のこの思惑がうまくいったとしても、新設は20年後です。20年後の世界では、脱原発、自然エネルギー活用が進み、原発は、発電コストの高い、時代遅れの発電方式となっていることは、目に見えています。

地震などの災害に脆弱で、行き場のない使用済み核燃料を増加させ、電力消費者に負担増を強いる原発の新増設は、犯罪的です。

使用済み核燃料の「乾式貯蔵」を阻止し、それを突破口に、老朽原発廃炉、原発全廃を勝ち取り、自然エネルギーのみで成り立つ社会を展望しましょう！

■カンパのお願い

「6.7原発のない明日（あした）を！全国集会 in おおさか」は、手弁当で、準備・実施されます。経費のご支援を戴ければ幸いです。

▼カンパ振込先（郵便振替）

加入者名：老朽原発動かすな！実行委員会
口座記号・番号：00990 - 4 - 334563

